

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4572000786		
法人名	有限会社K. G. N		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	宮崎県児湯郡木城町大字川原881-1 (電話) 0983-21-4120		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年6月19日	評価確定日	平成20年7月31日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは町の郊外に位置し、緑に囲まれ静かで落ち着きのある恵まれた環境の中にある。施設長が地元の出身であることから地域との交流が深く、利用者も地域の一員として積極的に行事に参加して交流を行っている。職員は開設以来ほとんど異動や離職がなく、なじみの職員が暖かく心のこもったケアを実践している。また、終末期に向けた対応も利用者、家族、職員で十分話し合い、掛かりつけ医の協力もあって前向きに取り組んでいる。

【情報提供票より】（平成20年5月19日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成17年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算3.7人	

（2）建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～1階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

（4）利用者の概要(平成20年5月19日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	3	要介護4	0		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 84歳	最低	75歳	最高	99歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	木城クリニック、高城歯科医院
---------	----------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題については、改善計画シートを作成して、着実に改善を行っている。また、外部評価の結果を運営推進会議で報告し話し合いを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、ミーティングで目的や意義を全員で話し合い、一連の過程を通じて理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に1回開催し、ホームの運営状況の報告や懸案事項等について話し合いを行っている。また、前回の外部評価の結果について報告し、具体的な改善計画シートを作成して着実に改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が設けられ、家族の意見や不満、苦情等が出やすい雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議に家族代表が出席して自由に意見や苦情等を表せる仕組みができています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設長が地元住民で地域との交流が深く、利用者も地域の一員として福祉スポーツ大会や祭り等の行事に参加し、地元の人々と交流を行っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間らしい生活をサポートし、役割や課題を地域に発信して地域で支える町づくりに貢献する」という、理念となっている。	○	地域の中で利用者が安心して暮らし続けることができるように、利用者の立場に立った理念を全員で考えつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について管理者と職員は毎月のミーティングで話し合いは行っているが、中身が十分理解されていない。	○	もう少し分かりやすく、お互い共有できる理念の検討を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が地元住民で地域との交流が深く、利用者も地域の一員として福祉スポーツ大会や祭り等の行事に参加し、地元の人々と交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、ミーティングにおいて目的や意義を全員で話し合い、一連の過程を通じて理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、外部評価は改善計画シートを作成して着実に改善を行っている。		

宮崎県木城町 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回開催し、ホームの運営状況の報告や懸案事項等について話し合いを行っている。また、会議の中で前回の外部評価の結果について報告し、具体的な改善計画を説明している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には町役場の担当者が毎回出席し交流しており、それ以外でも運営上の課題や日常の業務についても相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態をきめ細かに伝えている。また、必要に応じて電話でも報告している。	○	家族等に定期的な報告のためにホーム便りの発行も検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が設けられ、家族の意見や不満、苦情等が出やすい雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議に家族代表が出席して意見等を表せる仕組みができている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来ほとんど異動や離職がなく、なじみの職員が継続して支える体制ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修にはできるだけ多くの職員が受講できるように配慮されている。研修報告はミーティング等で発表されているが、研修報告書の作成やそれを閲覧できる仕組みができていない。	○	研修には参加しているが、その記録がないので研修の内容や報告の方法が不明である。今後は研修報告書の作成や閲覧の方法等の整備をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の相互研修の受け入れや地域スポーツ大会での交流等を行っている。また、本年11月にはグループホーム中央北連絡協議会に加入の予定である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅を訪問したり、事業所を見学してもらったりして、本人や家族が徐々になじみ、安心してサービスを利用できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、生活の技や文化等を多く教えてもらえる場面づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情から、暮らし方の希望や意向をできるだけ把握できるように努めている。また、利用開始前の生活状況や環境も参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングでケアのあり方について職員全員で意見交換を行い、利用者や家族の意向を十分反映した利用者本位の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ミーティングや勉強会等で利用者や家族の要望や意向を確認し、変化に応じて実現可能な介護計画になるよう見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて通院介助、外泊、墓参り等多機能を生かした柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力病院を掛かりつけ医としており、いつでも往診できる体制にあり、気軽に相談できる関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、本人、家族、職員で方針を十分話し合い、掛かりつけ医の協力もあって前向きな対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の配慮をしている。また、職員は個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や希望にあわせ散歩したり、おしゃべりを楽しむ等、利用者のペースで柔軟に対応している。		

宮崎県木城町 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで世間話をしながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに行っているが、希望があれば毎日入浴ができるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	七夕の準備や縫い物、掃除、後片づけ、カラオケ、散歩等、利用者一人ひとりが喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1回は近くのスーパーへ買物と一緒に出かけたり、散歩、ドライブ、外食等できるだけ戸外に出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵を掛けていない。		

宮崎県木城町 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、地区消防団の協力を得て避難訓練を実施している。	○	非常災害時の対応については、職員の対応だけでは限界があるので、避難訓練に住民の参加やマニュアルの整備等の検討を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量は毎日チェック表で管理しており、利用者の嗜好や希望を取り入れたバランスの良い食事の内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は全体的に広々として明るくゆとりがあり、広い庭に面してウッドデッキが配置されている。家族の作った造花がいたるところに飾られ、家庭的で落ち着きがあり、安心して生活できる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真、身の回りの小物等が持ち込まれ、居心地よく安心して生活できるように工夫がされている。		

※ は、重点項目。